

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標5_人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ】

施策 5-1_学習活動の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
5-01-01	生涯学習機会の充実	00338_01	高齢者生きがい創造学園講座事業
5-01-01	生涯学習機会の充実	10285_01	生涯学習大学等の開催
5-01-02	生涯学習関連施設の充実	02610_01	生涯活躍のまち拠点施設管理運営事業
5-01-02	生涯学習関連施設の充実	10134_01	公民館施設環境整備事業
5-01-02	生涯学習関連施設の充実	10278_01	高齢者生きがい創造学園環境整備事業
5-01-03	図書館機能の充実	10092_02	図書館利用促進事業
5-01-03	図書館機能の充実	10293_01	図書館施設整備事業
5-01-03	図書館機能の充実	10400_01	ブックスタート実施事業

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	00338_01		
事業名(行目名称)		高齢者生きがい創造学園講座事業費		細事業名	高齢者生きがい創造学園講座事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	学習活動の充実			
	基本計画	生涯学習機会の充実		担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市に居住するおおむね60歳以上の方			数値	19,432人		
	手段(どうやって)	令和4年度講座開設(高齢者生きがい創造学園講座 16講座) 学園自主サークル活動の支援(サークル 51サークル)						
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢化が急速に進展する社会の中で、学ぶ喜びを共有することによって生きがいを見つける学習機会の提供に努め、参加者の増加を図る。高齢者の豊かな経験と知識・技能を広く社会に還元できるよう学習を促し、ボランティア意識を向上させることにより生涯学習活動を発展させ、まちづくり活動の前進に繋げる。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○報酬 5,346千円 ○職員手当等 891千円 ○共済費 1,086千円 ○報償費 1,074千円 ○旅費 230千円 ○需用費 262千円 ○役務費 134千円 ○使用料及び賃借料 413千円 ○備品購入費 30千円		
経費		8,768	9,466	9,466	8,761			
財源	県・国支出金	0	3,188	3,188	3,717			
	地方債		0	0				
	その他	994	5,269	5,269	4,065			
一般財源		7,774	1,009	1,009	979			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
講座受講者数			目標値	5000	5000	2500	5000	5000
			実績	1784	2387	1345	2655	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>学びの場としての活動が、健康づくりや人との交流につながり、利用者の方にも求められる施設となっている。 本年度は、本館改修工事のため施設の一部が使用できず、他の施設で対応している。 新型コロナウイルス感染症の影響も重なり参加者数の伸び悩みがみられる。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>今後も高齢者の生きがいづくりの場としての役割を担い、要望に応え時代のニーズにあった学習機会の提供に努める。 次年度は、高齢者の生活上の諸問題をテーマとする講義や健康維持のために実技を取り入れた講座を充実させることにより受講生の増加を図る。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>現在、高齢者生きがい創造学園は高齢者の新たな人間関係の構築や興味を深める学習の場として重要な役割を担っている。 活気ある老後への足掛かりとなるこの活動は生きがい発見のために高齢化の進む現代社会において継続すべき事業である。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10285_01	
事業名(行目名称)		生涯学習センター充実費	細事業名	生涯学習大学等の開催		
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	学習活動の充実		
	基本計画	生涯学習機会の充実	担当課	社会教育課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市全市民		数値	116,052人(令和4年3月末現在)	
	手段(どうやって)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、工業高等専門学校等との連携を図り、日本文学講座、松山大学公開講座、新居浜高専市民講座等、各種講座を開設する。 ・市民のニーズ、時代の変化に対応した講座や必要課題に関する講座を開設する。 ・市民への幅広いPRにより新たな層の参加を図るとともに、生涯学習大学の自主的運営を促進する。 ・生涯学習推進員制度を設け、市民のニーズを反映した各種講座の企画・運営に努める。 				
	目的(どんな状態にしたいのか)	センター職員(指導員)による官制の講座から市民との協働へと、委嘱された生涯学習推進員を中心とした講座の企画立案から、ボランティアの協力員が加わった運営まで、市民スタッフによって運営される「市民による市民のための講座」を目指し、また、教養の向上に加え「ソフト面を中心とした生涯学習のまちづくり、ものづくり」の学習機会を提供し、ふるさとのまちづくり意識の高揚を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		7,665	11,670	11,670	8,521	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 6,013千円 ○職員手当等 1,003千円 ○共済費 1,218千円 ○報償費 1,900千円 ○旅費 485千円 ○需用費 365千円 ○役務費 180千円 ○委託料 200千円 ○使用料及び賃借料 306千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0		
	その他	1,835	2,268	2,268	2,073	
	一般財源	5,830	9,402	9,402	6,448	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度
延べ受講生数(人) ※目標値は、定員数		目標値	5765	7332	7895	7895
		実績	3481	4984	3249	5264
令和5年度						8329
令和5年度						—
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
<p>新型コロナウイルス感染拡大によって、一部の講座において制限がかかったが、現在までのところ中止することなく実施できている。従来の常識であった「集う」ことが前提条件の学びから、リモート等を活用した新しい学びを活用する状況に変化してきている。今年度の課題としては、一部の講座へ受講生の集中が見られ、枠数の拡大や定員増で対応を図ったが、会場確保やスタッフへの負担増などで難しさを感じてきた。より多くの市民が学習に参加できるよう、柔軟かつ適切な対応に努めていきたいと考えている。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>SDGsの実現、ウェルビーイングの獲得をテーマに掲げ、個人の要望と社会の要請のバランスが取れたプログラム構築を図っていききたい。特に、環境、平和、減災、国際化、まちづくりなどの領域で、大人版のアクティブラーニング(主体的で、対話的な、深い学び)の実現につとめ、当事者感覚で地域づくりに取り組む市民が増える学びを展開していきたい。また、リモートやインターネット配信を活用し、高度化、多様化した学びのニーズに応えるニューノーマル時代の学習機会の提供を図っていききたい。まなびすと(市民企画運営スタッフ)の拡充に努め、市民が創る生涯学習大学の方向性を志向していきたい。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>新型コロナウイルス禍の影響で従来の集い、学び合うシステムを越えて、リモート等を活用した新しい学びの手法が一気に浸透してきた。まだまだ、習熟には時間がかかるが、高年齢層の学習者においても知的好奇心は旺盛で、社会の変化に適応しようとしている。誰ひとり取り残されない社会の実現のためには、生涯にわたって学び続けることや、他者との関係性を維持していくことが重要であり、その意味でも当事業の社会的意義は高まっているものと感じる。また、個人の要望に応える学びだけではなく、社会の要請に応えるプログラムについても、行政の各担当課との連携が増加し協働講座も増えている。今後はまちづくりやウェルビーイングの実現につながる学習機会の提供に努めていきたいと考えている。</p>						

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	02610_01			
事業名(行目名称)		生涯活躍のまち拠点施設管理運営費	細事業名	生涯活躍のまち拠点施設管理運営事業				
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	学習活動の充実				
	基本計画	生涯学習関連施設の充実	担当課	シティプロモーション推進課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	ワクリエ新居浜の運営管理及び施設利用者		数値	約50000人			
	手段(どうやって)	施設の管理運営については、効果効率的かつ柔軟なサービスを提供するため、指定管理者制度を導入することとしている。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	起業家・企業を呼び込み、新たな産業の拠点とするほか、多世代・他分野の方が互いに知識と経験を深め、資格取得や趣味に至る各種講座も開講することで、生涯活躍を目指し未来に向かってチャレンジするすべての人を応援するための拠点施設とする。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		44,834	43,612	43,612	41,119	○需用費 1,000千円 ○役員費 59千円 ○委託料 42,553千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		44,834	43,612	43,612	41,119			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
施設利用者数			目標値	0	50000	30000	60000	100000
			実績	0	55379	57935	102316	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>コロナウィルス感染症拡大の影響を受けながらも、多様な経営努力や感染症対策により、多くの方にワクリエ新居浜をご利用いただくことが出来ている。夏休み期間中には「新居浜移動水族館」を開催したほか、「木育キャラバンin新居浜」など規模の大きなイベントを開催することもでき、多くの子育て世代に施設を利用いただくことが出来た。今後はレンタルオフィスやコワーキングルーム利用者による産業の創出が期待される。(中間値は4月～8月の実績)</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
<p>令和5年度は指定管理期間の最終年となるが、光熱水費の値上がりを考慮する必要があるため、債務負担行為の範囲内を基本としつつ、債務負担行為の補正も見込みながら、実績に応じた適正な指定管理料を算出する必要がある。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>指定管理者による各種事業の広報やイベント実施等、令和4年度は目標を大きく上回る方に施設を利用していただいた。今後も、周辺施設や関係機関と連携した事業の実施や利用が少ないコワーキングルームの利用促進等、さらなる認知度向上及び施設の利用促進を図る必要がある。</p>								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10134_01		
事業名(行目名称)		公民館施設環境整備事業	細事業名	公民館施設環境整備事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	学習活動の充実			
	基本計画	生涯学習関連施設の充実	担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民(公民館施設等の利便性)		数値	18		
	手段(どうやって)	公民館運営上必要となる修繕等の環境整備希望箇所の中から、緊急性・必要性の高い箇所の修繕や備品整備を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	住民の地域づくりの拠点として、より安全快適な施設環境を作り、市民サービスの向上に資する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○需用費 5,000千円 ○工事請負費 36,587千円 ○備品購入費 3,000千円	
経費		10,816	44,587	44,587	39,921		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	2,000	23,500	23,500	21,200		
	その他	0	2,678	2,678	2,396		
	一般財源	8,816	18,409	18,409	16,325		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
施設修繕対応率(修繕対応館数/希望館数)		目標値	100	100	50	100	100
		実績	100	100	50	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
修繕及び備品購入の選定については、年度当初に全館に対して希望調査を実施し、担当職員が現地での現状調査・確認を行うとともに、各公民館長・センター所長から要望に関するヒアリングを行っている。全公民館のすべての要望に応えることができないため、その中でも緊急性の高いものから対応している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
公民館は、住民の地域づくりの拠点として、様々な市民が利用することから、より安心・安全な施設環境を保つ必要があるため、今後も現場の希望調査を実施し、緊急性・必要性の高いものから修繕・備品整備を行う。 なお、施設の老朽化に伴い比較的大規模な施設改修が必要となっており、計画的な改修工事を実施する必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
令和4年度は、神郷公民館公共下水道接続工事、金栄公民館の外壁及び屋上防水工事並びに王子幼稚園の空調設備を中萩公民館図書室の空調設備へ移設する工事を行った。 年度初めに各公民館等の修繕及び備品購入希望調査を実施し、緊急度、重要度、公民館からの希望順位などから優先順位を決定し、計画的に修繕・備品購入を実施した。なお、突発的な故障や破損が発生し、その都度計画を修正しながら対応したため、当初の希望すべてに対応することができなかったが、公民館との協議を通じて、必要性及び緊急性の高いものについては対応することができた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10278_01		
事業名(行目名称)		高齢者生きがい創造学園環境整備事業		細事業名	高齢者生きがい創造学園環境整備事業			
総合 計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	学習活動の充実			
	基本計画	生涯学習関連施設の充実		担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対象(誰・何を)	高齢者生きがい創造学園施設利用者			数値	30,389人(令和3年度実績)		
	手段(どうやって)	耐震補強工事及び屋上防水改修工事等						
	目的(どんな状態にしたいのか)	施設利用者が安全・安心に利用できるように施設環境の整備を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		43,027	127,490	127,490	124,767	○工事請負費 127,490千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		114,700	114,700	112,200			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	43,027	12,790	12,790	12,567			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
予算執行率(予算執行額/予算額)%			目標値	0	100	100	100	0
			実績	0	90	96.9	99.6	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
本館施設の耐震補強工事及び屋上防水改修工事を実施している。工事の進捗は計画より遅れているが、工期内に終了予定である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止					
今年度で耐震改修工事は完了するため、予算要望しない。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		D:事業の統合・休廃止を検討					
本館耐震改修工事及び屋上防水改修工事が完了し、大地震に対する耐震性の確保等、学園生が安心して利用できる施設改修を行えた。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10092_02		
事業名(行目名称)		図書館充実費		細事業名	図書館利用促進事業			
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策	学習活動の充実			
	基本計画	図書館機能の充実		担当課	社会教育課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	図書館を利用する市民			数値	116,052人		
	手段(どうやって)	多様な資料や情報の充実を図り、豊富な蔵書を基盤に丁寧かつ的確なレファレンズサービスを重視する。また多分野にわたる内容の講座やイベントの開催や関係団体や企業との連携した運営サービスに取り組む。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	新鮮で豊かな資料・情報を収集し、地域の情報拠点・生涯学習支援施設として、市民が必要とする資料・情報提供を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		22,979	23,168	23,168	22,860	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 30千円 ○旅費 124千円 ○需用費 2,365千円 ○役務費 11千円 ○使用料及び賃借料 113千円 ○備品購入費 20,525千円 		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	22,979	23,168	23,168	22,860			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
別子銅山記念図書館入館者数			目標値	230000	230000	230000	230000	230000
			実績	185190	145137	14102	174168	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
利用者のニーズに沿った資料の収集及び提供に努めるとともに、安心して来館できる対策を講じ、対面サービスを積極的に実施していく。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
ウィズコロナの時代に来館しない・できない市民に対し積極的な情報提供・情報発信が求められ、図書館サービスの更なる利便性の向上として、資料の充実はもとより、デジタル化にも対応していく必要がある。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
入館者は、コロナ禍前の水準まで少しずつ回復している傾向にあり、市民の資料ニーズに応え、良質な資料・情報の収集・保存・提供に取り組み蔵書の充実に努めた。またコロナ禍を機に新たなニーズに対応した電子図書館サービスは、幅広い世代に向けたジャンルを精査しコンテンツの充実を図った。さらに開館30周年記念として幼児から高齢者まで幅広い世代を対象にした新たなイベントや企画展を開催し、図書館のイメージアップと利用促進につながる取組となった。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10293_01
事業名(行目名称)		図書館施設環境整備事業		細事業名 図書館施設整備事業		
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ		施策 学習活動の充実		
	基本計画	図書館機能の充実		担当課 社会教育課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	図書館施設を利用する市民			数値	116,052人
	手段(どうやって)	図書館施設、設備等について、計画的に修理及び更新を行う。令和4年度は、施設内照明器具LED更新工事、第3会議室及び屋上排水ドレン増設工事、また経年劣化している別子銅山記念図書館進入路については、安全対策を徹底して舗装更新工事を実施する。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	図書館施設、設備等の整備を行い、図書館利用者の安全性及び利便性の向上を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		2,318	7,689	7,689	5,886	
財源	県・国支出金	0	0	0	0	○需用費 2,178千円 ○工事請負費 5,511千円
	地方債	1,300	6,000	6,000	4,400	
	その他	0	611	611	408	
	一般財源	1,018	1,078	1,078	1,078	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度
修繕達成率(%)			目標値	100	100	100
			実績	100	100	100
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
<p>進入路舗装更新工事及び屋上排水ドレン増設工事については計画通り修繕が完了し、LED更新工事についても計画通り11月に実施する。また、年度当初に発生した防煙垂れ壁及び直流電源装置の故障について、早急に今後の対応を検討する。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大			
<p>施設の老朽化は、経年劣化による設備機器の故障に顕著に現れており、修繕に係る経費も高額となることから関係課と協議を進め計画的な修繕方針を立てる必要がある。</p>						
VI 事後評価						
成果		総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当		
<p>施設・設備の経年劣化等が進むか、老朽化が著しい別子銅山記念図書館進入路舗装更新工事や照明器具LED化更新工事を計画的に施設及び機器の改修を実施し、利用者の安心・安全な利用環境の充実に努めた。</p>						

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	10400_01		
事業名(行目名称)		ブックスタート事業費	細事業名	ブックスタート実施事業				
総合計画	まちづくり	人権・協働・社会教育・文化・スポーツ・コミュニティ	施策	学習活動の充実				
	基本計画	図書館機能の充実	担当課	社会教育課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	5か月児と保護者		数値	1,000人			
	手段(どうやって)	保健センターの5か月健康相談時に図書館司書2名が出向き、5か月児と保護者に親子の触れ合いの大切さを説明しながら、ブックスタートパック(図書館で選書した赤ちゃん絵本、読書案内、図書館利用案内等)を手渡す。5か月健康相談時に0歳児(希望者)に図書館カードを発行する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	すべての赤ちゃんと保護者が絵本を介して触れ合うきっかけが生まれ、絵本の楽しさ大切さを知ってもらうことによって、子どもの読書推進を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,777	1,743	1,743	1,742	○報償費 1,743千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	1,777	1,743	1,743	1,742			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
配布数(次世代支援計画のニーズ調査による)			目標値	740	740	370	740	740
			実績	752	699	353	746	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
保健センターでの接触の密をさけるため、昨年度に引き続き司書からでなく、保健師から絵本パックを手渡している。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
新居浜に生まれた子どもたちが赤ちゃん時代から親子での絵本の時間を共有するきっかけとして有効な方法である。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
図書館の利用促進を図るため乳児5か月健診相談時に親子に絵本の読み聞かせの大切さを丁寧に伝えながらブックスタートパックを手渡し、図書館のPRや希望者には赤ちゃんの図書カードを発行しているが、前年度に引き続き令和4年度もコロナ感染症対策のため直接対面を避け、保健センター職員より配布した。								